

大崎町中央公民館

郷土資料展示室へようこそ③

～郷土のお正月～



今年もあと残りわずかとなりました。昔は正月の準備を始める日は、全国的に旧暦の12月13日で、これを師走13日といっていました。今から100年くらい前までは、年内にしなければならない祭りや婚礼は、12日までにすませて新しい年の準備にかかっていました。準備では、正月に使う薪を用意したり、正月用のもち米を搗いて精白したり、門松に使う材料を山に伐りにいったりしていました。平成6～7年に鹿児島大学・鹿児島民具学会が行った調査の結果報告書『大崎町の民俗』では、大崎の民俗文化財について多岐にわたり、まとめられています。今回はこの『大崎町の民俗』に記載されている正月にまつわる習わしをほんの一部抜粋しながら、昔ながらの郷土の正月をご紹介します。

【正月の準備】

伝承①

門松は28日頃から準備する。竹（葉の付いたままのコサンダケ）と松とユズリハを使う。シラスをもって割れ木を3本根のところに立て掛けるようにしておく。シラスは祝いの砂であるから庭にもたくさんまいていた。しめ縄も28日頃から準備する。左巻きにまく。

餅つきは30日にする。29日についてはいけない。神様、床サア、大黒様、カマド、農機具、井戸などにミカンや里芋を添えて供えていた。

伝承②

餅は28日か30日についていた。29日には、ついてはいけない。

竹、松、ウラジロ、ユズリハ、庭のシラスを使って門松をつくる。ワラでしめ縄を作る。

伝承③

門松は松、ユズリハ、コサンダケを使ってつくる。松、竹を立ててシラスを盛り、樫の木の割れ木を三本立て掛ける。シラスは庭にまく。今でもまいている。しめ縄はだいたい炭をさしたものを真ん中につける。

餅は29日から30日につく。センソサア、床サア、カマド、水神様、農機具に供える。～29日の餅つきは、苦の餅（クモチ・クンモチ）といわれ、苦を取り込むと考えられるため、29日は避けられています。また午の日の餅つきも避ける地域があります。



【セイロ】



【臼と杵】

【大晦日の食事】

伝承①

ソバ、米の飯、サシミ、大根・アゲドウフ・サトイモの煮つけ、たまに魚の煮つけがあったりした。

伝承②

自分の家で作ったソバ粉で年越しソバを作り、トリ・トウフなどを入れて食べていた。

伝承③

大晦日のことを、トイノバン、トシトイノバンと言っていた。その日食べるのは、ソバぐらいだった。

【正月】

・食事

伝承①

カシワ（鶏）の刺身や、骨も一緒に煮た煮しめ、オスモン（雑煮）、金時豆などがあつた。オスモンの中身は、餅・里芋・オヤシ（大豆もやし）・カシワなどであつた。

伝承②

ニワトリのスイモン、サシミ（魚やニワトリ）、煮豆、カシワ・大根・アゲドウフ・コンニャクなどの煮もの、カマボコ、お菓子など。

伝承③

なます、キイコン（カシワ、大根、人参、ごぼう、揚げ豆腐、こんにゃくなどを煮込んだ汁。カシワは骨も入れる。そばのだしにすることもあつた。）スシ、イワシのヒボカシ、雑煮



【お雑煮】

・元旦～20日

伝承①

元旦 若水汲みをする。朝早くその日に限って主人が汲みに行く。その水でお茶を沸かして神棚にあげる。

6日 六日年。花立てや、門松にモロムギをさす。

7日 七草粥をつくる。

11日 農機具に供えていた鏡餅をさげて煮て食べる。農作業の始まりを意味する。

14日 厄払い。男が41歳、女が33歳。年の数だけお金を道路の三叉路にまく。

15日 おかゆを炊いて手足につけるとマムシに食われないといわれていた。魔よけの意味がある。

20日 二十日正月。特に何もしない。

伝承②

元旦 若水汲み。朝早く暗いうちに女の人が汲みにいっていた。ハッポミツは宝の水であるといわれていた。その水でご飯を炊いて神棚にあげる。

6日 ムカドシ。墓にモロムギを供える。

7日 七草粥を炊く。

14日 厄払い。年の数だけ道路の三叉路にお金をまく。男が41歳、女が33歳。

15日 柳と山木を削ったものと一緒に墓や家に供える。

20日 ハッカショガッドン。墓にいくくらいで特に何もしない。

伝承③

元旦 朝早くに井戸に水（ハッポミツ）汲みに行った。

2日 母方の実家へ帰った。鏡餅1枚・米1升を持っていった。

11日 鏡餅を粥にしたものを、家の回りに振って歩いた。厄除けの意味があつたらしい。

14日 厄払いをした。三叉路にお金をまいていた。このお金を家に持ち込んではいけない。



【モロムギ】

地域や家庭によって、若干の相違点がありますが、門松の材料、餅の搗き方、餅を供える場所、食べ物、食べ方といった一つ一つの風習に『魔よけ』『豊作願い』『子孫繁栄』の要素が見られます。

この調査が行われた平成6～7年の時点でも薄れつつあつた様々な風習の伝承は、調査から17年の年月を経た今、もっと難しいのが現状でしょう。

しかし正月は人々にとって、年中行事の中でも極めて重要であり、それぞれの行動に込められた意味をそれだけ強く感じることができます。様々な風習から、新しい年を迎える原点に気づくかもしれません。

正月にまつわる思い出話や、現在の様子とくらべた感想など、ぜひお聞かせください。☎ 476-0548 社会教育課